

佐賀県研究成果情報

ニホンナシ「王秋」の適正な摘果時期					
[要約]ニホンナシ「王秋」は満開 40 日後までは摘果時期による果実品質への影響は少ないが、満開 50 日後の摘果では果実重が小さく、糖度も低くなる。また、果実糖度は短果枝着生果実が腋花芽着生果実より高い。					
佐賀果樹試・落葉果樹研究室				連絡先	0952-73-2275
部会名	果 樹	専 門	栽 培	対 象	ナ シ

[背景・ねらい]

現在、九州各県において導入が進んでいるナシ品種「王秋」は果実品質が優れているが、まだ、その栽培技術は確立されていない。そこで、栽培上重要な適正な摘果時期を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1．満開 40 日後までは摘果時期による品質への影響は見られない。満開 50 日後に摘果を行うと、果実重が軽く、糖度も低くなる（表 1，2）。
- 2．収穫果実の重量分布について満開後 40 日までは摘果時期による差は見られない（図 1）。
- 3．「王秋」は満開後 40 日までに短果枝着生果実を 10 果 / m²に摘果することによって、果実重 600 g 以上、糖度 12 % 以上の果実が生産できる。

[成果の活用面・留意点]

- 1．花芽着生は良好であるため、着果過多になりやすく、小玉果は糖度も低くなる。
- 2．腋花芽に着果した果実は糖度がやや低く、腰高となりやすいため出来るだけ着果させない。
- 3．着果過多の場合、樹勢が急激に弱り、枝枯病が多発する。

[具体的データ]

表1 王秋果実の品質調査(2002年10月8日)

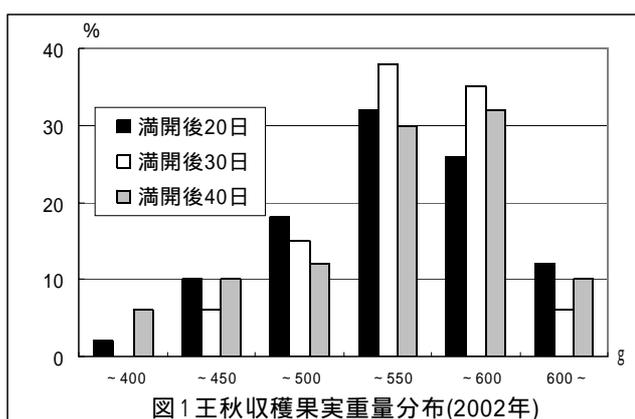
	摘果時期	一果平均重(g)	硬度(p)	糖度	pH	種子数	変形程度 ^{a)}
短果枝	満開後20日	512.5	4.2	12.0	4.67	6.5	1.07
	満開後30日	534.3	4.1	12.1	4.72	6.2	1.08
	満開後40日	520.3	4.3	11.7	4.76	5.8	1.10
腋花芽	満開後20日	507.1	3.9	11.5	4.59	6.0	1.08
	満開後30日	542.7	4.2	11.3	4.69	6.8	1.09
	満開後40日	521.5	4.0	11.5	4.65	6.3	1.08

a) 長横径/短横径

短果枝と腋花芽着生果実の摘果を2002年は満開20日、30日、40日後に、2003年は満開20日、30日、40日、50日後に行った。摘果程度は2002年は12果/m²、2003年は10果/m²とした。2002年は満開が4月5日で収穫は10月8日、2003年は満開が4月10日で収穫は10月12日に行った。

表2 王秋果実の品質調査(2003年10月12日)

	摘果時期	一果平均重(g)	硬度(p)	糖度	pH	種子数	変形程度
短果枝	満開後20日	632.5	4.5	12.7	4.80	4.8	1.05
	満開後30日	654.3	4.3	12.5	4.73	5.5	1.07
	満開後40日	650.8	4.2	12.5	4.79	5.1	1.06
	満開後50日	563.9	4.5	11.6	4.68	4.9	1.07
腋花芽	満開後20日	611.1	4.3	11.9	4.70	5.1	1.12
	満開後30日	632.4	4.5	12.3	4.65	5.8	1.18
	満開後40日	630.5	4.5	11.8	4.68	5.3	1.10
	満開後50日	588.1	4.8	11.5	4.71	5.5	1.16



[その他]

研究課題名：中生ナシ新品種の栽培技術開発による新出荷体系の確立

予算区分：県単

研究期間：2002～2007年度

研究担当者：稲富和弘、福田浩幸、前山美和